

局長だより 6月

◇学力研最新情報

●夏の全国フォーラム申込方法

お手元に届いたチラシは、2部。会員のみなさんご自分用と、お誘い用です。今年は申込方法を2通りにしました。

①去年と同様「こくちーず」を使って、講座、分科会、交流会を選択して申し込む。

②FAX用紙に記入して送信する。どちらの方法でも、返信がありません。

返信には、mailもFAXも入金口座のお知らせがありますので、振り込みをお願いします。入金確認後、参加証葉書を返送します。

気をつけていただきたいのは、お一人ずつ申し込みしていただきたいことです。学校などから複数で申込される時には、FAX用紙をコピーして送信してください。また、同封しましたポスターも、お誘い用に活用下さい。

◇常任委員長だより 図書 啓展

常任委員会で、全国フォーラムのチラシ発送作業をしていたとのこと。プリントや手紙が、字の書いてある方の中にして折って入れてあると、何のプリントかですぐにはわからないね、という話題になりました。私は、「学校でも子どもにプリントを配る時、必ず字が書いてある方を外にして折りなさい、と言っています。何のプリントか、すぐわかるように。時間が節約できるので、一生で一年間くらい長生きできるように、って言っています。」と言いました。この方法は、高校の時に生物の先生に教えてもらいました。今でも役立っています。ささいなことでも、積み重なると大きな差になります。学力研で学んできたことも、ささいなこと毎日積み上げる、継続することで大きな花が咲く、ということ。漢字練習も丁寧さを評価していくと字が激変してきます。

◇組織局だより 岡本 美穂

フランスの詩人である、ルイ・アラゴンという方が、「教えるとは、ともに希望を語ること。学ぶとは、心に誠実を刻むこと。」と言っています。

6月に入り、困った子どもが出てきていませんか？以前おもちや箱の講座にいられたいた広木先生が、困っている子↓困った子と捉える。(二つのシグナルである)

「この子さえないなければ」の言葉が心に残る。子どもが、何をするようにして困っているのか？考える。それは、どのような眼差しで見ると変わってくる、とおっしゃっておられました。子どもはとても敏感です。まずは、教師がホッとできる場を自ら持つようにしてください。学力研の「先生のための学校」では今年度、久保先生などが直接相談に乗って頂けるような機会が持てるように計画しています。もう申し込みも始まっています。お早めどうぞ。

◇千人プロジェクトだより 岡 篤 ●六月危機克服セミナー

六月十日は、森川正樹先生の講演の前に私が実践報告をさせていただきます。テーマは、「リセットボタンをもとう」シンプルで効果的な取り組みです。

学級開きは、ほとんどの教師が気合いを入れて迎えます。子どもも同じです。現在は、いかがでしょうか。四月と同じ気持ちで取り組みを続けられているなら順調です。

私の場合、徐々に子どもの課題が見えてくるとそちらに気をとられて、ゆとりがなくなる傾向にありました。(単純にいうと、いらしたすということ) 四月に考えていたことも六月に入ると、それほど強い思いはなくなったり、ひどいときにはすっかりわすれていたということもありました。「リセットボタンをもとう」はその反省からきています。

教師の意識のリセットに加え、具体的な手立てについてもお話しします。(続く)